

令和5年8月3日

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大阪情報ITクリエイター専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大阪情報ITクリエイター専門学校、学校関係者評価委員会は、令和4年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 実施日

令和5年8月3日（木）

2. 学校関係者評価委員

長谷川 徹 氏（株式会社 オーティエス 取締役社長）

八尾 一廣 氏（株式会社 MC企画 管理部開発課主任）

西端 一晃 氏（株式会社 プロモ 副部長）

（事務局）

宮路 信美（大原学園難波校 校長）

藤川 宏明（大原学園難波校 部長）

山本 省二（大原学園難波校 課長）

川上 譲司（大原学園難波校 課長代理）

川畑 増知（大原学園難波校 課長補佐）

令和4年度自己点検・評価の概要

(事務局)

大阪情報ITクリエイター専門学校の2022年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。

また、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、「教育の資質向上」、「施設・設備・教育用具等の整備」、「学生相談に関する体制」の3点に関してご助言を頂戴し、重点的に改善に努めてきた。

具体的な取り組みとしては、AWS研修、貸与PC導入準備、ゲーミングマシン塚導入、学生指導研修等を実施した。教育成果として情報処理国家資格合格割合90%超並びに、50%の学生が2科目以上の資格を取得した。クリエイター・マンガ・イラスト分野においては、大阪市役所の防犯ポスターやコロナ感染対策ポスター等を手掛けた。声優分野においては、全員がプロダクションに合格するなどの目標を達成した。

2023年度においては引き続き教育目標の達成並びに、昨年から継続している課題対策に加え、新たな重点目標を挙げ、特に学生指導力は重点課題とし、更なる教育環境の充実を図るべく各種取り組みを行う計画でございます。

令和5年度 重点目標①

退学率の低減

<現状・達成指標>

達成度合 70%

事業計画における最重要課題の1つとして、退学率の低減に向けた取り組みを強化している。近年、経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。退学可能性がある学生の早期発見のために、日々の教員の学生指導力（コミュニケーション能力）の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。

<具体的方策>

ご家庭と連携した指導を実現できるように、退学の兆候が発見された段階で、保護者等との連絡を密にするようにしている。また、早期の段階で管理者含め指導に入るなど退学者の減少に努めている。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

具体的方策は評価できる。

精神的な面の早期発見は、日々のコミュニケーションも大事だが、可能なら複数の職員で担当された方がより良いと考える。また専門のカウンセラーを設ける方法も検討されると良い。

(MC企画 八尾委員)

具体的方策は継続頂きたい。また学生対応を複数の大原職員で行った方が良いと考える。

担任（大原職員1人）と非常勤講師だけでなく、授業は担当しなくても学生がコミュニケー

ションを取れる職員がいた方が良い。今のところは大きな問題はないが、今後のことを考えると双方（学生と大原学園）にとってトラブル回避にもなると考える。

精神疾患がある学生に対してはスクールカウンセラーを置くことも検討した方が良いと考える。

（プロモ 西端委員）

具体的な対策がとられている点については評価ができる。

金銭的な事由については、奨学金制度の理解等、普及や浸透が望まれる。

メンタル等については 早い段階のキャッチアップが必要である。

個人によっては距離が近すぎるが故に、なかなか相談しにくい方もいると思うので担任以外の第3者に相談できる環境が提供できるとよいのではないかと。

担任の先生方もプロではないためカウンセラーを設けるのも1つの方法だと考える。

令和5年度 重点目標②

教員の資質向上

<現状・達成指標>

定期的に学生にアンケートを実施するほか、上司の講義聴講等により専門性、教授力の把握・評価を行っている。また、企業と連携した教員研修を実施し、学科ごとに目指す試験の制度や業界ニーズにあわせた教員の資質向上に努めている。

<具体的方策>

達成度合 80%

年々学生の状況も多様化し、教員の学生指導に求められるスキルが高まっていることから、学園共通の教員研修、教育事業部による専門スキル向上研修への参加に加え、学生指導力に特化した研修の実施。更に、自部署以外の管理職・ベテラン教員による講義研修も実施を計画している。

<学校関係者評価委員からの提言>

（オーティエス 長谷川委員）

学生アンケートを取得し指導に反映されている為、国家試験取得率も高い合格率を維持できていると考えるので継続して頂ければと考える。

IT技術の進展が目覚ましい分野においては外部企業からの研修は必須と考えるため、継続して研修を行ってカリキュラムに反映されるとよい。

（MC企画 八尾委員）

学生指導に関しては現在の形を継続頂ければと考える。

技術指導に関して、非常勤講師も大原職員も基本的に現在行われているのは演者側の指導である。選ぶ側人間、つまり制作する側の話を聞いたり、授業を担当してもらうことも必要だと考える。映像プロデューサーをはじめとする監督等、実際声優や俳優を選んだりするのは第一線で活躍する選ぶ側の人間だからである。可能であればそういった視点も取り入れて頂きたい。

（プロモ 西端委員）

企業連携した教員研修や、ベテラン職員による講義研修は非常に良いと考えます。

学生、職員の質向上につながる為に、学生作品発表の場を増やし、外部講師や他職員の講評を交えると効果的。

特にクリエイターは説明が出来ないとダメなので、機会を増やされてはどうか。

令和5年度 重点目標③

施設・設備・教育用具等を整備

<現状・達成指標>

達成度合 80%

昨年度に校舎の LED 化工事が完了。また、校舎の老朽化に伴う定期的なメンテナンスの実施。PC の増設及びノート PC 貸与、Wifi 環境の整備を行った。

<具体的方策>

常に最新レベルの実習授業環境の構築のため、最新 PC へのリプレースおよび、ノート PC 貸与、実習室内の改修工事を計画している。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

教材のデジタル化、個人ごと PC を準備するなど、学生の負担を減らし満足な環境整備に努められている点は評価できる。今後、老朽化が進むであろう、表には見えない根幹的な装置（ルータや HUB）等の見直しも必要になるものとする。

(MC 企画 八尾委員)

録音ブースを購入する。

MC 企画の所属タレントで他の専門学校へも講師として派遣しているが、録音ブースが無い学校は無い。予算にもよるが小さいもの（車いすの方が使える電話ボックス程度の大きさ）であれば、教室の隅に置くこともできると考えるので検討頂きたい。綺麗な音で収録できるようになれば、より実践的な指導ができるようになる。

(プロモ 西端委員)

マシンも 5 年周期でのリプレースで運用されて適正に行われてると考えます。

Web においては、モバイルファーストになっているので、各種携帯を揃えておくが良い。

全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

今年度重点的に取り組む項目として「退学率の低減」「教職員の資質向上」「施設・設備・教育用具等を」をあげられている。大阪情報 IT クリエイター専門学校が目指す実践的教育について、ニーズや価値観の多様化に対応できる体制の構築を目指されるとよい。退学率の低減について、理由は多岐に渡ると想像するが、教職員の資質向上は主に専門的な技術的スキルに特化したものになることが予想され、学生のメンタル面のフォローはスクールカウンセラー等を配置されることや外部研修にて教員自身が研鑽されるも検討されるとよい。今後も学校関係者評価委員一同、客観的な視点から様々な提言を行い、大阪情報 IT クリエイター専門学校が社会の信頼を得られるよう協力したい。

(事務局)

大阪情報 IT クリエイター専門学校は、商業、工業の課程を有し、社会情勢の変化に対応することが求められており、常に委員の方々にご助言を賜りながら社会で即戦力となる人材育成を担って行く所存である。

専門教育の提供のみならず、人格の陶冶を柱とした教育目標達成のために、教職員は職能の向上に努めるとともに、今回のご提言にあった、学生指導の面においても個々に寄り添った教育を提供できるように努めたい。

文責：川上 譲司